

大阪教育大学

岸本幸臣

神戸山手女子短大 ○中西真弓

◆目的◆ 本編では人気プランの考察から得られた平面構成上の諸要素と既存住宅平面との関連を、住宅の評価や住み方の側面から明らかにする。

◆方法◆ 前編に同じ

◆結果◆ 採取された住宅平面が住み方や住宅評価とどのように関わっているのかを考察するには、住宅平面の類型化が不可欠である。しかし、採取図面は従来のプラン類型のスタイルに馴染まないものが多く、また公私室型等に代わる類型案もみあたらない。ところが、人気プラン分析で得られた平面構成の諸特性を用いることによって、住宅平面と住み方や評価との関連を明らかにすることが一定の条件の中で可能となった。①住宅の評価との関わり 現住宅に対する満足度を総合評価で捉えると満足度は「一階和・洋室の構成の仕方」「1階の動線処理のタイプ」あるいは「一、二階の居室の配列」といった居室の空間的特性と密接な関わりを持っていることが指摘できる。また、居室構成の諸特性は地域性や建築年代との間にも一定の関連が認められ、時間的要素や都市的要素を含めて考察することの必要性も指摘できた。②住み方との関わり 住み方と平面の関係を公私の空間構成を例にとってみると、公室と私室の接近度・分離度もまた、住宅平面の構成要素と密接に関わっていることが明らかになった。③他の要素との関わり 人気プランに示された平面構成上の諸特性は、多様な現実の住宅の間取りを類型化する要素として有効性を持っていることが分かった。また、こうした諸特性が存在する背景を把握するために、居住者の住意識・住み方・家族特性等の諸側面からも考察を加えてみた。